

夜間学校ニュース

1987年5月5日
西成区萩之茶屋2の
8の9 旅路の里気付
釜ヶ崎夜間学校

在日朝鮮人・韓国人の
指紋押なつ拒否断固支持！
定住外国人に市民権を

みんなでつくろう

みんなの 会館

三人よれば何とかの知恵

釜ヶ崎夜間学校

毎週金曜日

夜七時より

市民館三階

朝日新聞支局襲撃事件と釜ヶ崎(ス)

言論・表現の自由と我々

朝日新聞阪神支局襲撃事件で殺された小尻記者の朝日新聞社葬が本日おこなわれていいる。

先週の夜間学校ニュースでは、あの襲撃事件が、今の日本のありかたを丸のまんま肯定する立場から、あらためるべきを積極的に取り上げている報道機関に対して、今この日本のあり方を

丸のまま認めては将来に希望をもてない我々にもおけられたものであるこの判断を伝えた。

今回は別の面からも考えてみようと思う。

夜間学校ニュースの題字や住所の下には毎回、「指紋押なつ拒否断固支持」と書いていいるが、その運動について報道がきにならないゆえの襲撃とすれば、差

別が、差別される人々自身から、その支持者までに拡大され、攻撃される時代になったことを示すものであ

る。青カンを余儀なくされている仲間、今ですら、少年や酔っぱらいなどに襲われていいるのに、それが当然とされる時代。それに抗議する声が増えられる時代になったという事だ。

言論・表現の自由に対する攻撃ともいわれている。言論・表現の自由は、一般論としていいたてても、無意味なもので、具体性をあ

びていられなければならな

釜の越冬では、二百名の仲間が梅田へ、青カンの事態を伝えにでかけたが、機動隊は力で圧殺し、十数名の仲間を逮捕した。これは表現を力で押

えこんだものだ。朝日新聞は多様な内容の情報を伝えていいる。釜ヶ崎のことも他社とくらべ、一定理解ある報道がされてい

る。少数・庄迎しからの異議申し立て、積極的に取り上げようとする姿勢

に対する攻撃とすれば、やはり無関心ではいらぬ。